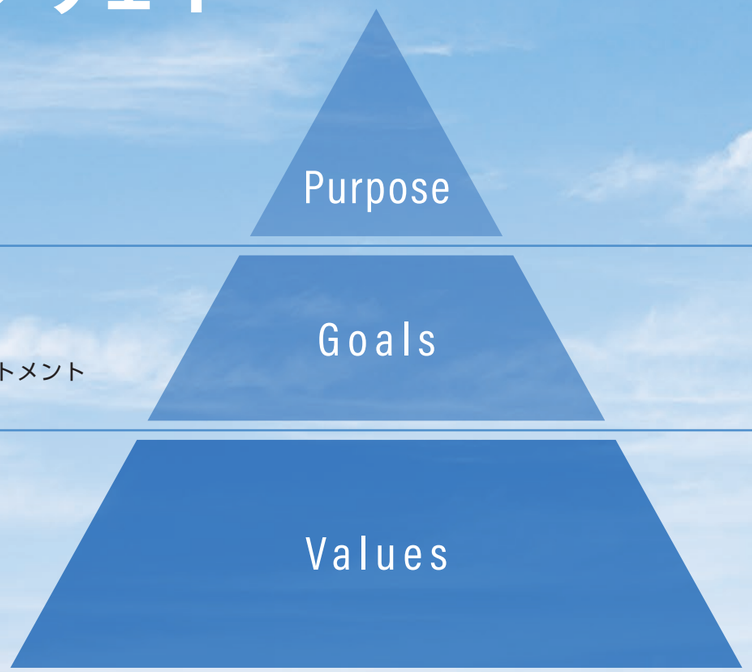
わたしたちの価値観

AREグループウェイ



Why　なぜ存在するのか？

社会における企業の存在意義

What　何をするのか？

パーパス実現のための具体的なコミットメント

How　どう行動するのか？

社員の行動指針

Purpose

この手で守る自然と資源

～限りある資源と地球環境を守り、持続可能な世界の実現に貢献します～

Goals

- 地球規模の課題解決と企業価値向上の両立
- すべてのステークホルダーから期待される事業成長と利益の実現
- 世界から信頼されるコーポレートブランドの確立

Values

人を大切に

わたしたちは、安全と健康を何よりも優先し一人ひとりを尊重します

挑戦しよう

わたしたちは、失敗を恐れずチャレンジし、未来に革新を起こします

自ら考えよう

わたしたちは、現場・現物・現実と全体最適を拠り所として自ら考え行動します

追い求めよう

わたしたちは、より良い技術・品質・サービスを追求します

学び続けよう

わたしたちは、自己の成長と組織の発展のために学び、進化していきます

ARE グループウェイを経営における全ての基本思想にして中長期ビジョン達成を目指す

AREグループウェイは創業時からの精神を継承する当社グループの最も大切な基本思想です。
ウェイにある言葉一つひとつを社員が日々心に抱き、実践することで、事業が健全に推進され、結果として中長期ビジョンが達成されると信じます。
社員や組織がウェイを実践できるよう、全ての方針や施策をウェイに基づいて構築、整理しています。

中長期ビジョン
↑
人事戦略
↑
AREグループウェイ

AREグループウェイを軸に、一人ひとりの主体性を引き出す組織づくりを推進します

人事部　課長　大森 千晶

「グループウェイ」は、当社が大切にする価値観や行動指針を共有し、日々の業務で一人ひとりが自律的に体現していくための共通の軸です。そこで、組織風土づくりの要である管理職を対象にワークショップを実施しました。管理職自身がその意義や、背景にある思いを深く理解し自らの言葉で語れるようになること、部下一人ひとりとの対話を通じて、日々の業務にその考え方を浸透させ、行動につなげていくことを目的としました。あわせて、グループウェイを「自分ごと」として捉え自律的な実践を促すことを狙いとして、全社員に期待される行動や具体的な事例を記載したハンドブックを配布しました。現場では「これはグループウェイの○○だね」といった自然な会話が増え、少しずつ職場に根付き始めています。今後は、人事制度とも連動させ、目標設定や面談の場において、社員一人ひとりの行動と成長を振り返る仕組みを構築していきます。グループウェイの浸透と実践により、組織全体の価値創造につなげていきたいと考えています。

AREグループウェイを指針として、従業員一丸で未来への挑戦を進めます

アサヒリファイニングUSA HR シニアマネージャー　クリスティン・ミラー

米国ではAREグループウェイを共有した後、策定に至った背景やパーパス・ゴールズ・バリューズそれぞれの意味を理解するためのトレーニングを実施しました。AREグループウェイを常に振り返ることができるよう全従業員にAREグループウェイが記載されたカードを配布し、施設内にも掲示しています。さらに、生産部門の毎朝の会議では「AREグループウェイシェア」と呼ばれる実践事例の共有時間を設け、全従業員が参加する四半期毎の全体会議でもレビューを実施するなど、継続的に浸透を図っています。AREグループウェイは、世界各地の従業員が共通のパーパス・ゴールズ・バリューズを胸に一丸となって取り組むための重要な指針となっています。

創業の原点と価値創造の歩み

創業から70年を超えたわたしたちの歩みは「挑戦しよう」の歴史です。

1952年

挑戦の原点、朝日化学研究所からの出発

1952年、写真定着液からの銀回収を手がけた朝日化学研究所として始まり、電解法による効率的で高純度な銀のリサイクルを実現。写真・医療用フィルムの需要拡大を背景に、リサイクル事業の基盤を築き、事業を大きく拡大しました。

1971年

環境事業への挑戦、全国へ広がるネットワーク

1970年代の公害規制強化を受け、1975年に日本で初めて有害写真関係廃液の無害化処理ライセンスを神戸市から取得。環境保全事業へ本格参入しました。分析・計量技術を磨き、産業廃棄物処理を拡大。全国に営業拠点を展開し、循環型社会の実現を先駆けて担う存在として成長しました。

無害化処理施設

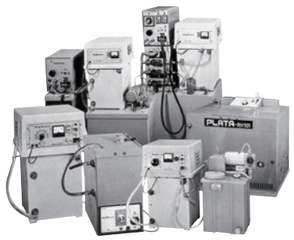
新領域への挑戦、多角化と海外進出

既存の銀リサイクルに加え、歯科・宝飾・電子など、幅広い分野へ対象を拡大し、多角化を推進。さらにアジア市場に進出し、将来のグローバル展開への足がかりを築きました。この時期に培った柔軟な発想と技術革新への挑戦が、その後の飛躍的な成長へつながりました。

精密洗浄事業　酸剥離設備

1952	大阪市城東区に「朝日化学研究所」を創立 写真定着液からの銀のリサイクル事業を開始
1964	株式会社へ組織変更

1972	写真廃液の無害化処理施設を神戸工場に設置
1974	福岡営業所開設 以降全国各地へ営業所を展開
1975	小型電解回収装置「プラタ」を開発 神戸市の産業廃棄物中間処理業許可を取得（有害物を含む写真廃液無害化処理）



「プラタ」シリーズ

1978	神戸市東灘区に本社社屋を竣工 環境計量証明事業所の登録
1982	歯科分野からの貴金属リサイクル事業を開始
1984	メッキ分野からの貴金属リサイクル事業を開始
1986	電子・宝飾分野からの貴金属リサイクル事業を開始 小型電解式金回収装置「ジパング」を開発
1990	写真廃液以外の環境保全事業を開始
1994	マレーシアにASAHI G&S SDN. BHD.を設立

1996年

次の舞台へ、上場とグループ経営の強化

1999年に株式を公開し、2000年に東証二部、2002年には東証一部へ上場を果たしました。資本市場からの信頼を背景に、ガバナンスや技術力を強化するとともに、自動車触媒や精密洗浄など新分野に進出。環境事業会社の設立を進め、2009年には持株会社制へ移行し、グループ経営の基盤を確立しました。

1998年株式公開

2012年

飛躍の時代、新たな理念とグローバル展開

2012年に「アサヒウェイ」を制定し、社員の価値観を明文化。2015年には北米の金・銀精錬事業を買収し、世界的なリサイクル・精錬企業へと飛躍しました。2023年には社名を「AREホールディングス」に変更し、2024年に新たな経営理念「AREグループウェイ」を策定。次の成長ステージへの基盤を強化しました。

ARE
Think circular

新しいロゴマーク

2025年

未来へ挑む、循環型社会への挑戦

「この手で守る自然と資源」のパーパスのもと、2030年に向けた中長期ビジョンの取り組みを加速。貴金属リサイクルのさらなる進化、海外展開の強化を通じて、循環型社会の実現に挑み続けます。

1997	アサヒプリテック（株）に社名変更
1998	本社機能を神戸市中央区に移転 研究開発施設テクノセンターを神戸市西区に開設
1999	店頭市場に株式公開
2000	東京証券取引所第二部に株式上場
2002	東京証券取引所第一部に株式上場
2003	自動車触媒事業を開始
2006	韓国アサヒプリテック（株）を設立
2009	持株会社アサヒホールディングス（株）を設立
2011	Eスクラップ事業を開始 精密洗浄事業を開始
2012	アサヒウェイを制定 東京証券取引所ESG銘柄に選定される
2015	監査等委員会設置会社へ移行 指名委員会と報酬委員会を設置 業績連動型株式報酬制度を導入 英ジョンソン・マッセイ社から北米（米国・カナダ）の金・銀精錬事業を買収し、Asahi Refining USA Inc.とAsahi Refining Canada Ltd.を設立
2016	IFRS（国際会計基準）を適用
2017	新株式発行等による増資を実施
2018	アサヒウェイを全面改訂
2021	Asahi Depository LLCを設立 DXE（株）を設立
2022	東京証券取引所プライム市場に移行
2023	茨城県坂東市に坂東工場竣工 AREホールディングス（株）に社名変更 アサヒメタルファイン（株）を設立
2024	AREグループウェイを制定 産業廃棄物処理事業を再編（（株）レナタスと株式交換を実施） アサヒプリテック（株）がAsahi Pretec (Thailand) Co., Ltd.を設立
2025	アサヒプリテック（株）がAsahi Pretec India Private Limitedを設立

長い歴史で培った競争優位性で世の中に価値を提供します。

AREホールディングスは、「この手で守る自然と資源」というパーパスのもと、「AREグループウェイ」を企業理念として掲げています。挑戦を重んじるこの理念と、長年培った強みを基盤に、持続可能な価値創造と安定したビジネスモデルを実現しています。事業を通じて、産業の持続的な発展とCO_2削減を両立し、循環型社会の構築に貢献しています。

事業内容

事業を通じた価値提供

貴金属事業

貴金属リサイクル事業

さまざまな分野から発生する貴金属含有スクラップを回収し、リサイクルしています。金・銀・プラチナ・パラジウムなどを、現代のモノづくりに欠かせない貴金属製品として再生しています。

ARE ← 貴金属含有スクラップ回収 ／ 貴金属製品提供 → 市場・社会

高精度な分析
＋
最高効率の回収と精錬
＋
日本全国をカバーする営業ネットワーク
＝
競争優位

北米精錬事業

米国およびカナダにおいて鉱山由来の金・銀の精錬事業を行っています。また金融サービス、付加価値の高い製品製造、最先端倉庫での貴金属保管を行っています。

鉱山 → 原料入荷 → ARE → 貴金属製品提供 → 市場・社会

高精度な分析
＋
北米最大規模の精錬設備と顧客基盤
＋
多角化された事業ポートフォリオ
＝
競争優位

循環型社会の構築
産業の発展
CO_2削減

貴金属の安定供給
高付加価値製品・サービス
取引の円滑化

環境保全事業

環境保全事業

産業廃棄物処理業界の各事業者に向けて、産廃処理業務効率化のデジタルプラットフォームを提供しています。

ARE → ノウハウ・システム提供 → 産廃事業者

長年培った産業廃棄物処理の豊富なノウハウ
＋
産廃業界DXに特化したデジタルサービス提供
＋
取引データ蓄積によるDXサービス基盤構築
＝
競争優位

廃棄物処理のDX化による効率化
人手不足への対応
安全性の向上

わたしたちの強み

人を大切に

信頼と絆の継承

当社の発展を支えてきたのは、言うまでもなく従業員との信頼関係です。家族経営だった「My Company」の時代、それから従業員とともにさまざまな変化に対応して新しい事業をつくりあげてきた「Our Company」の時代を経て、上場企業として、株主をはじめとする他のステークホルダーの皆さまを強く意識する「Your Company」の時代へと変遷してきましたが、その間、わたしたちは将来のグローバル化も見据えて多彩な人材の採用を積極的に進め、同時に当社の伝統的価値観である経営理念や行動指針をまとめた「アサヒウェイ」の共有を図ることで、強い使命感や高い倫理観を維持してきました。その価値観は、新たに策定した「AREグループウェイ」にも引き継がれています。

また、公正・公平な評価と成果主義を通して処遇の改善を図り、自己申告制度や満足度調査なども導入しながら、仕事のやりがいとワークライフバランスに留意することで、従業員との信頼関係をサステナブルな関係へと強化してきました。AREグループウェイのバリューズにも一番最初に「人を大切に」を掲げており、身体と心の健康を何よりも優先しています。多様な人材が活き活きと働くことが、さまざまな事業環境の変化による困難を乗り越える礎となっています。

歴史の中で育んだAREの強み　価値創造を支える8つのファクター

変化への対応力

事業環境やライフサイクルを注視し、柔軟な発想と果敢な行動力、スピード感のある意思決定で、独創性のあるビジネスモデル構築や、衰退期の事業からの素早い撤退を進めてきました。この対応力によって、成長を維持し続けています。

業界をリードする「独自の技術」

高度な分析力と高い効率で貴金属を回収する技術、顧客のニーズを的確に捉えて商品開発を進める技術を誇ります。不断の研究開発により、各事業分野で“独自の技術”を磨き続けています。

価値観を継承する多彩な組織

当社グループ共通の価値観である「AREグループウェイ」を共有し、“人を大切に”“挑戦しよう”のマインドに満ちた従業員が成長を担ってきました。積極的に人材へ投資し、価値観を共有できる組織づくりを続けています。

ステークホルダーとの良好な関係

投資家との対話を積極的に行い、顧客や取引先の声に耳を傾け、ガバナンスの強化、商品・サービスの開発に活かしています。従業員はもとより地域との信頼関係を大切にし、長期的な企業価値の向上に取り組んでいます。

事業を再生する経営力

過去20年間で、20社以上の会社をM&Aでグループに取り込み、経営改善を進めてきました。事業環境に合った柔軟な経営力によって、ほぼすべての会社がグループ入り前より業績を伸ばし、さらなる業績向上を進めています。

信頼されるアサヒブランド

当社グループの貴金属製品は、確かな品質が世界で高く評価されています。すべての事業において、クオリティの高い製品とサービスを提供し続けることで、信頼されるアサヒブランドを築いています。

グローバルに拡がるネットワーク

1994年マレーシアに現地法人を設立して以降、韓国などアジア各地に進出しました。2015年には北米の精錬事業をM&Aにより取得し、対象顧客は世界各国に拡がっています。

高いマーケットシェア

顧客や取引先の皆さまに満足していただくことを第一に考え、製品・サービスの向上に努めてきました。幅広いニーズに応えることができる営業力・技術力はお客様からの信頼を獲得し、高いマーケットシェアを実現しています。

挑戦しよう

事業のスクラップ＆ビルドを実践

わたしたちは1952年の創業以来、一貫して循環型社会の形成に資する事業を推進し、今ではグローバルに事業を展開する企業へと発展を遂げました。

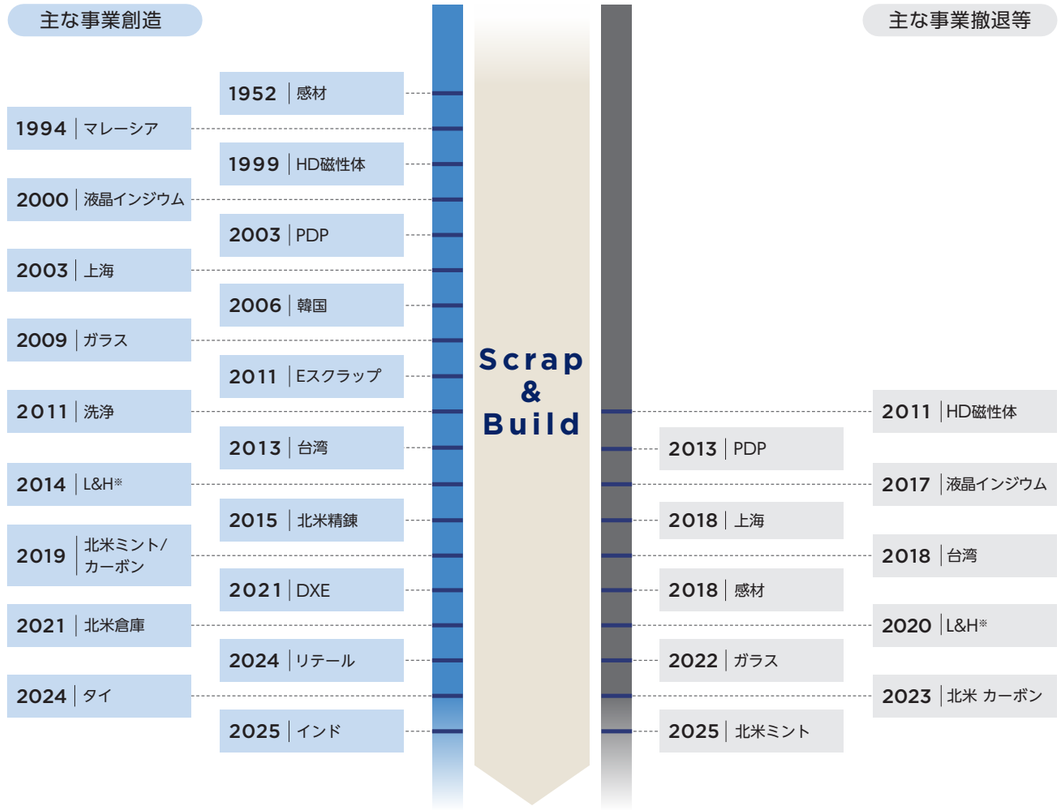
当社の歴史を振り返ると、「挑戦しよう」の連続でした。写真定着液からの銀のリサイクル事業により創業し、1975年に日本で初めて、有害物を含む写真廃液の無害化処理ライセンスである「産業廃棄物中間処理業許可」を神戸市から取得しましたが、これが、当社の事業を全国規模へと広げていくことになりました。

その後、さまざまな難局を乗り越えながらも、歯科・宝飾・電子・触媒といった銀以外の貴金属も扱う分野に貴金属リサイクルの対象を広げるとともに、新規事業創造にも挑戦してきました。また環境保全事業を中心に、この20年間で20社以上の企業の買収を行ってきました。加えて北米の精錬会社の大型買収も行った結果、当社の事業ポートフォリオは大きく変容しました。

一方で収益性や成長性、シナジーの観点から、当社において継続すべきではないと判断された事業からは、躊躇せず早期に撤退しました。利益の出ていた写真感材事業ならびにライフ＆ヘルス事業からの撤退がその事例です。創業から70年以上、「挑戦しよう」を事業のスクラップ＆ビルドを通じて実践してきたのです。

スピードを重視した事業改革の推移

※ライフ＆ヘルス事業セグメント



価値創造プロセス

わたしたちは「環境と社会をつなぐ循環経済の担い手となる」ことを目指して、
長年にわたり事業の成長と社会的課題の解決を両立させてきました。
今後も事業活動から生み出された価値を最大化させるように努めていきます。

Inputs

長年培ってきた
分析技術を基礎とする経営資源

価値創造の源泉

この手で守る
自然と資源

- 営業人材
- 貴金属高精度回収技術
- ユニークな
  北米事業ポートフォリオ
- 産業廃棄物処理の
  豊富な知見

財務資本
資本合計
1,263億円

製造資本
国内
23ヵ所
海外
13ヵ所

人的資本
従業員
979人
専門技術職
156人

知的資本
分析技術
精錬技術
リサイクル技術

原材料
貴金属含有
スクラップ、
ドーレ等

自然資本

Business Activities

新分野開拓・海外展開の
推進による収益性向上

中長期ビジョン

環境と社会をつなぐ
循環経済の担い手となる

地球環境に配慮した
資源循環の推進

×

5つの戦略主題

- 収益性を高める事業基盤強化
- 貴金属事業の新分野開拓
- 一層のグローバリゼーション推進
- 事業発展を支える人材形成
- バランスシートの最適化

貴金属　北　米　環　境

Outputs

環境にやさしい
リサイクル貴金属の供給拡大

事業を通じた
社会課題の解決

グリーン
ゴールド

各種貴金属
地金

DXE
Station

マテリアリティ

- 貴金属リサイクルの拡大
- 人・社会・環境にやさしい貴金属供給
- CO_2排出量の削減
- ワークライフバランスと
  ダイバーシティの基盤充実

Outcomes

循環型社会への貢献

社会価値

2030年の目指す姿

貴金属リサイクル量の総量	300t
貴金属リサイクルによる CO_2削減効果	83.7万t-CO_2

株主・投資家
中長期的な企業価値向上
継続的、安定的な株主還元

お取引先
人・社会・環境にやさしい貴金属の供給
産業廃棄物処理関連業務のDX化

従業員

インターバル勤務11時間以上達成率	100%
女性管理職比率	7.0%
障がい者雇用率	法定雇用率以上
年次有給休暇取得率	70%
男性育児目的休暇取得率	100%

地域社会
CO_2排出量(Scope1,2)　-42%(2023年度比)

経済価値

2030年の目指す業績イメージ

売上高	5,400億円
営業利益	380億円
ROE	13%
自己資本比率	50～60%

コーポレート・　ガバナンスの高度化

人的資本　経営の強化

資本の再投資・配分

社会の変化
価値観の多様化　高齢化　環境問題顕在化　デジタルトランスフォーメーション　感染症リスク